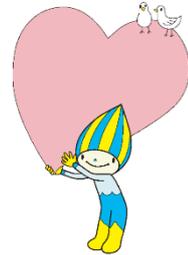




家庭で夢を語り合う 「夢板づくり」



郡上市立和良小学校

【在宅取組型】→授業

和良小学校では、市の林務課や NPO 法人「つくしん棒」の協力を得て、全校で「夢板づくり」に取り組んでおられます。

「夢板」とは、学童用の机を保護する天板を利用して自分の成長の足跡を記録するものです。1年生で将来の夢や今年の目標、身長、名前を書いて手形を押し、2年生からは毎年、名前や身長、1年間の目標を書きます。そして、卒業時にも将来の夢を書いて手形を押し、ブックエンド型に加工してもらったものを卒業記念として持ち帰ります。

和良小学校では「夢板づくり」を家庭教育学級の一環とし、1年生で将来の夢と目標を考える際に家族と話し合う在宅での活動を取り入れられています。今回はこの活動について紹介します。

【活動の願い】



“ふるさと郡上の山、森林、木と自分とのつながりについて学ぶ” “郡上で生産・加工された「YUMEITA (学童机保護天板)」の仕上げを自ら行う” “日常的に郡上の木に触れ、森づくりについて考える機会をつくる” の3つを活動のねらいとし、将来の夢や今年の目標を家族と話し合う機会を設けることで、家庭でのあたたかい時間をつくりたい。

【取組の概要】



- ・個別懇談で、担任から保護者に「夢板づくり」について説明する。(併せて、担任から子どもたちへ説明する。)
- ・個別懇談後、学校から持ち帰ったプリントに、家族と話し合った「将来の夢」と「1年生の目標」を記入する。
- ・家族と話し合ったプリントをもとに、授業で「夢板づくり」の活動に取り組む。

1. しょうらいのゆめ
おおきくなったら、なにになりたいかな。おうちのひととおはなししよう。いくつかあるかもしれないけど、1つきめてね。

ゆめいばを つくろう！

なまえ ()

あした、みんなでゆめいばをつくりたい。
ゆめいばに「しょうらいのゆめ」と「なまえ」、「1年生の目標」を書きます。
なにをかいて、おうちの人に おんがしてあげよう。

1. しょうらいのゆめ
①おおきくなったら、なにになりたいかな。おうちのひととおはなしよう。
いくつかあるかもしれないけど、1つきめてね。
②しょうらいのゆめをかいてみよう。
しょうらいのゆめ
[]

2. もくひょう
①ねんせいで「なにをかいてみようか、おうちのひととおはなししよう。」
②「なまえ」と「1年生の目標」をかいてみよう。
なまえ [] 1年生の目標 []

2. もくひょう
1ねんせいで なにをかいてみようか。おうちのひととおはなししよう。

【「夢板づくり」の授業の様子】

当日は保護者のみなさんも授業を参観され、家族と話し合った将来の夢や目標が「夢板」に書かれる様子を笑顔でご覧になっていました。

山の手入れをしないと、台風や雪で木が倒れたり山崩れが起きたりします。木を切ることは大事、そして木を使うことも大事です。



最初に、郡上市役所農林水産部 林務課主事の長谷川さんより、郡上の山や森林についてのお話を聞きました。

林業者、木工業者など、たくさんの方が木に関わっています。みんなが木を使うことで、多くの方が元気になります。

次に、NPO 法人「つくしん棒」の佐野さんより、山や木についての説明を聞き、実際に「夢板づくり」に取り組みました。



これから作る「夢板」は、毎年みんなの成長や夢を書き、卒業する時はこんな形で持ち帰ります。



机を保護する天板の裏側を使った「夢板」に、家族と話し合った将来の夢や目標と、1年生の身長、名前を書き込み、手形を押します。サンドペーパーで回りを滑らかにし、ニスを塗って完成です。

【取材を終えて】

- ・「夢板づくり」は、家族とともにふるさとの山や木について学ぶよい機会になっています。
- ・卒業時に持ち帰る「夢板」は、手形の大きさの違いだけでなく、ひらがなだけだった「将来の夢」に漢字が入るようになったり、年々身長が大きく伸びたりと、6年間の成長が感じられるよい記録となっているそうです。
- ・家族と話し合った夢を真剣に書き込む子どもたち、それを温かく見守る保護者の方や先生方の姿が印象的でした。



家族で考える 大切な命とわが家を守る方法



関市立板取小学校

【講演会型】

板取小学校は、PTA 会員数（保護者）が 12 名、児童数が 19 名の小規模校で、子どもたちを健やかに育てるため、学校と家庭、地域が手を取り合って教育活動が展開されています。

保護者だけでなく家族の皆さんや卒業生、地域の方が集まりやすいようにと、7月16日の土曜授業の日を利用し、PTA 行事と抱き合わせて防災について考える家庭教育学級を実施されました。

当日は PTA 地区委員会主催の「親子清掃活動」と本部役員会主催・板取支派川増殖組合協賛の「アマゴつかみ取り」に続き、学級委員会主催の防災講演会「地震に備えて親子で家の点検をしよう」が開催されました。

【活動の願い】



- ・家族だけでなく卒業生や地域の方も参加しやすい土曜授業の日に複数の活動を計画した。
- ・当日は、地区委員会主催の「親子奉仕作業」を通して家族のふれあいを大切に、本部役員会主催・板取支派川増殖組合協賛の「アマゴのつかみ取り」で地域のよさを味わい、学級委員会主催の「防災講演会」で家族ぐるみ・地域ぐるみで防災意識を高めてもらうことをねらいとした。

【講演会の概要】



<講師> 岐阜大学地域減災研究センター
清流の国ぎふ防災・減災センター 村岡 治道 特任准教授

<テーマ> 「地震に備えて親子で家の点検をしよう」

<講演内容>

○ 地震の際の身の守り方について（プレゼンを使いクイズを交えながら説明）

「地震で揺れ始めてから本棚が倒れるまでの時間は？」
「上や周りを見回し、危ないものを20秒で10個探しましょう。」
「物が落ちてきそうな／移動してきそうな／倒れそうな“危ない場所”を1分間で10個見つけましょう。」
「揺れ始めてから揺れが終わるまでの時間は？」
「下敷きにならない場所はどこだろう？」
「“机の下”にこだわるな!」「“机の下”はいつも安全？」
「緊急地震速報を聞いたら？」



- ☆「命を守るのは「4秒、5秒」だということを知ってほしい。
- ☆家へ帰ったら、落ちてきそうな／移動してきそうな／倒れそうな 危ない場所を確認しましょう。
- ☆絶対下敷きになってはいけない！ 4秒、5秒で家族が命を失わない方法を考えよう。
→ 安全な場所に移動するとともに、下敷きにならない場所を家の中にたくさん作ろう。
- ☆緊急地震速報を聞いた瞬間、安全な場所へ移動すること。（命を守るためにフライングを!）



「揺れ始めてから揺れが終わるまでの時間は？ 5秒だと思う人？」
年齢層の広い参加者でしたが、クイズ形式のため、誰もが楽しく参加できました。

○家族で自分の教室へ行き、地震が起きた時危ないと思う場所に新聞紙を広げよう。



窓ガラスのそば、蛍光灯の下、
テレビ、水槽・・・危険な場所
を家族でチェックします。

○地震の揺れに強いポーズをとってみよう。

ただの「ダンゴムシ」ではなく、膝を広げ、アキレス腱とかかとはお尻の下に入れ、おでこを少し浮かします。危険物にはお尻を向けて！



○まとめ

- ・家に帰ったら、危ない物／危ない場所をチェックし、どうやって命を守るかを家族で考えよう。
- ・できれば家具を「正しく」固定しよう。
- ・家具の固定が難しければ、部屋のレイアウトを変えたりガラスに飛散防止シートを貼ったりするなどの対策を取ろう。

【取材を終えて】



・「多くの人に参加してもらいたい」という主催者の願いが感じられる会でした。当日は保護者以外の家族の方や、中学生の姿も見られました。

・家族と一緒に防災についての話を聞き、家に帰ってから改めて我が家の防災について家族で考える流れになっており、自然な形で講演会での学びが家庭生活に結びついた家庭教育学級でした。